

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ⑪

高谷中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第11回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- 1 日 時 令和4年6月25日(土) 10時00分～11時00分
- 2 会 場 信篤公民館 第2会議室
- 3 構 成 ・委員長：大学教授
(19名) ・委員：各学校(高谷中・信篤小・二俣小)の学校運営協議会代表
- 4 内 容 ・報告事項：1. 意識調査の結果について
2. 第1回プロジェクト会議について

5 報告内容

※ 教育委員会の説明事項は概要を記載しています。7月末ごろに「会議資料」をホームページに掲載しますので、詳しくは、そちらをご覧ください。

【教育委員会⇒分野別情報「学校教育・学校施設」⇒義務教育学校の設置に関する検討委員会】

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/edu20/1111000002.html>

報告

1. 意識調査の結果について

<意識調査>

- (1) 調査目的 信篤三つ葉学園の義務教育9年間を見通した教育活動の充実および各小中学校間の連携の推進に生かすため。
- (2) 対 象 信篤三つ葉学園の児童生徒(小学3年生から中学3年生)、保護者および教職員
- (3) 実施期間 令和4年5月13日(金)から5月19日(木)
- (4) 回答数

	高谷中学校	信篤小学校	二俣小学校	合計
児童生徒	358	316	134	808
保護者	156	299	77	532
教職員	27	27	19	73
合計	541	642	230	1,413

<調査内容(概要)>

「高谷中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画」に基づき、以下の要旨で調査を行いました。

児童生徒	保護者	教職員
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学校生活について ・信篤三つ葉学園への誇り(愛校心)について ・教育課程の効果について ・教科担任制の効果について ・自己肯定感や思いやりの心の育成について ・問題行動の防止について ・中一ギャップについて(小学生のみ) ・小中の教職員および児童生徒の交流について ・新しい教科の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の効果 ・中一ギャップについて ・自己肯定感や思いやりの心の育成について ・学力や学習意欲の向上について ・部活動や生徒会活動の活性化について ・小中連携による教職員への影響について ・小中一貫教育による、地域との連携強化について 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の効果 ・信篤三つ葉学園への誇り(愛校心)について ・授業改善について ・児童生徒への理解の深まりについて ・協働体制の構築について ・校務の効率化や質的な向上について ・教育課程の効果について ・など教職員の視点から見た児童生徒の太字の記載内容について

<意識調査結果のデータ解析>

以下の項目を目的とし、平均値や単なる数字の積み上げでは見えない、データの組み合わせによる、見えない成果と課題を可視化するため、委員長（大学教授）が意識調査のデータ解析を行い、報告しました。

【解析の目的】

- ① 信篤三つ葉学園の基本計画がどのように理解されているか。
- ② 児童生徒や保護者の期待、教職員の認識と今後の課題の検討。

<意識調査結果の解析から見えた成果と課題>

(1) 「信篤三つ葉学園」に誇り（愛校心）を持っている児童生徒の傾向

- ・ 3, 4年生では授業に対して、積極的に参加する姿勢などが強い傾向が見られる。
- ・ 5, 6年生からは自己の学びの前向きな姿勢や、自己肯定感が高くなり、また思考について、主体的・内省的な転換が図られる傾向にある。
- ・ 中学生では、5, 6年生で見られた傾向が一層強くなっている。
- ・ また、5, 6年生から中学生となるにつれて、教師に対する親密な信頼関係の向上が見られる。
- ・ 一方、学年にかかわらず、人格的成長にとって大切な他者の存在（アドバイス、注意をしてくれる友人の存在）に不安を感じる傾向が見られる。

(2) 小学生の中学校への進学不安について

- ・ 3, 4年生は、中学生の学習や友人関係に不安を感じていないが、勉強へのやる気に不安がある。
- ・ 5, 6年生は、中学生の学習や友人関係に不安を感じていない。勉強へのやる気の不安は、3, 4年生と比較して、改善の傾向が見られる。

(3) 中一ギャップの緩和、自己肯定感の向上、指導力・学力向上から見た保護者の期待と認識

- ・ 中一ギャップの緩和には小中の交流による自己肯定感の向上が最も大切と考えている。
- ・ 自己肯定感の向上には、子どもの成長実感と自主性の育成が不可欠と考えている
- ・ 指導力・学力向上には、子どもの発達に即した指導、教育の質の向上、教科担任制・複数教員による授業が不可欠と考えている。
- ・ 保護者は、基本計画を「中一ギャップの緩和」「自己肯定感の向上」「指導力と学力の向上」の観点から的確に理解している。
- ・ 保護者は、「中一ギャップの緩和」と「自己肯定感の向上」、「指導力と学力の向上」を関連付けて認識している。
- ・ 一方、小中一貫教育による部活動の活性化については比較的消極的な評価となっている。

(4) 学園の学習環境の構築と子どもたちの成長に関する教職員の期待と認識

- ・ 小学校の教職員は、小中一貫教育の指導力の向上による、子どもの理解の深まり、教師と子どもの人間関係の深まりが進むことに期待をしている。
- ・ 子どもの理解の深まりには、協力して指導に当たる意識の向上が基礎となり、それに基づく子どもの発達認識の深まりが背景となっている。
- ・ また子どもの理解の深まりには、保護者との協働関係の強化が必要と認識している。
- ・ 中学校の教職員も、指導力の向上による、小中一貫教育による子どもの理解の深化、教師と子どもの人間関係の深まりに期待をしている。
- ・ 中学校の教職員は、子どもたちの理解の深まりには校務分掌の効率化が前提と認識している。
- ・ また、教師と子どもの人間関係の深まりには、地域との協働関係の強化が前提となり、教職員の協力した指導体制が基礎となると認識している。

＜総合所見＞

- ・子どもたちの、学力への期待は具体的であり、また保護者は基本計画を的確に理解している。
- ・教職員に対しては、保護者・地域との協力関係の強化に合わせて校務分掌の効率化について、現実的な対応が必要。

＜意識調査の分析からの提言＞

- (1) 「高谷中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画」に沿って、「学園」が目指す「学力」の実質を明確にすること。
 - ・ここでいう学力は、全ての教科の基礎となる、自ら課題や仮説を見出し、それを解決する筋道のある論理的思考力のこと。
 - ・自己の思考過程を振り返り、修正する力が特に大きく影響する。
 - ・これらを支える力こそ、自己肯定感や、成長感の向上。
- (2) 保護者と教員の協働体制を実質化すること。
 - ・小中一貫教育は、子どもと保護者の期待に応える教育改革であるという理解の徹底が必要。
 - ・地域、保護者との協働は不可欠であり、それが改革を促進する。

◎意識調査の分析結果は、グランドデザイン等の検討に際し、検討材料として加えていきます。

＜主な意見＞（○：委員長及び委員 ●：事務局及びオブザーバー）

- 説明から、児童生徒、保護者、先生方の期待値が非常に高いことがわかりました。この期待を実現に導くためには、先生方の負担が増えてしまうことが心配です。先生の負担の高まりは社会問題の一つであり、そこを注意しないとうまくいかない。また同時に、現場の先生方のご意見を十分、取り入れて進めていくことが大事だと思います。また、提言の中に、保護者と教員の協働体制がありました。これはP T Aの力を発揮する場ではないかと思いますが、どのように関わっていけばよいか、ご助言を頂ければありがたいです。
- 先生方の負担の解消については、事務局で検討してほしいと思います。京都市立京都御池中学校の事例では、現在、定数の配置人数で、改革を推進しています。先生方一人一人の積極的な関わり、意識改革が不可欠だと思います。また、具体的な教育改革については、3校の教職員の代表者が集まり協議を進める「プロジェクト会議」で、積極的に議論を進めてほしいと思います。保護者を含めた地域との協働体制については、市川市の先進事例である塩浜学園を参観して、信篤三つ葉学園で可能なことを、調べる必要があると思います。
- 信篤三つ葉学園のスタートにあたり、担当部署に先生の加配などを相談してきたところです。また、人の増員だけではなく、今後のプロジェクト会議の運営など、教育委員会が3校の先生方を支えていくことで、負担軽減につなげていきたいと考えております。塩浜学園の見学につきましては、以前から話がありました。コロナ禍で、なかなか実現できない状況ですが、再度検討したいと思います。また、塩浜学園のP T Aの関わりなどについては、担当部署と、情報を共有し、具体的なものをお示しできればと考えております。
- 自治会としては、地域の子どもたちが、安全安心して通学できる体制づくりができるとよいと思います。また、P T Aの皆様には、地域の子どもとして、挨拶やお礼などができる子を育ててほしいと思います。
- 信篤三つ葉学園がスタートしたことから、学校運営協議会を3校一緒に実施できる会議とし、また参加する全員が、屈託のない意見を出せるような会議とした方が、話が進んでいくと思います。
- 東国分爽風学園では、今年度から3校の運営協議会を1つにした合同運営協議会の形に変更しました。信篤三つ葉学園についても、今年度中に担当部署より、同様の提案を行う予定となっております。

2. 第1回プロジェクト会議について

プロジェクト会議は、3校の校長・教頭・教務主任等の教職員の代表で構成し、信篤三つ葉学園で今後、実施する小中一貫教育等の取り組みに関して協議します。

第1回の会議を、以下のとおり開催したことについて報告しました。

- (1) 日 時 令和4年5月9日(月) 10時00分～11時00分
- (2) 会 場 市川市立高谷中学校
- (3) 参加者 ・高谷中(校長・教頭・教務) 信篤小(校長) 二俣小(校長)
(10名) ・教育委員会(指導課・学校環境調整課)の担当者
- (4) 内 容 ①信篤三つ葉学園のグランドデザイン(全体構想)について
②義務教育9年間を貫く教育課程について
- (5) 会議の概要
①信篤三つ葉学園のグランドデザイン(全体構想)の柱となるキーワードの検討。
②義務教育9年間を貫く教育課程(新しい教科・領域)でテーマとする内容の検討。

◎次回のプロジェクト会議では、今回報告があった意識調査の分析結果を含めて、更に検討を進めます。詳細については、「プロジェクト会議だより」でご報告いたします。

<委員からの意見無し>

3. その他

次回、義務教育学校の設置に関する検討委員会の開催予定

日程：令和4年10月下旬

場所：信篤公民館

お問い合わせ先(事務局)：市川市教育委員会 学校教育部 学校環境調整課
Tel: 047-702-5355 / Fax: 047-383-9203